

科学技術政策担当大臣等政務三役と  
総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合  
議事概要

- 日 時 平成27年10月29日（木）10：00～10：56
- 場 所 中央合同庁舎8号館 6階623会議室
- 出席者 島尻大臣、原山議員、久間議員、内山田議員、小谷議員、  
橋本議員、平野議員、大西議員  
森本統括官、中西審議官、中川審議官、松本審議官  
笹井参事官、水野参事官、林参事官  
日商 荒井科学技術・知財専門委員会委員長  
COCN 須藤専務理事・実行委員長、中塚理事・事務局長

○議事概要

○原山議員 皆様、おはようございます。科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術・イノベーション会議有識者議員との会合を開催させていただきます。

本日は大臣も御出席いただきました。

欠席のほうなのですが、松本副大臣、酒井政務官、それから議員のほうは中西さんが御欠席ということでございます。

本日は大臣、10時半までここにいらっしやって中身に御参加いただければと思います。

本日は議題3つございますが、公開としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

では、プレスをお願いいたします。

(プレス入室)

議題1. 「地方創生に向けた『第5期科学技術基本計画』のあり方に関する7つの提言」について

○原山議員 本日議題3つございます。

基本的にはただいま最終とりまとめに向かっております第5期科学技術基本計画に対するコメントあるいは提言というのが他の組織の方からいただいております、その中の一つとしま

して本日は議題1です、地方創生に向けた『第5期科学技術基本計画』のあり方に関する7つの提言ということで、日商の荒井さんから御説明をいただきます。以前にも一度ここでもって御発表いただきましたが、具体的な提言ということで本日お願いいたします。よろしくお願いいたします。

<日商 荒井科学技術・知財専門委員会委員長より説明>

○原山議員 ありがとうございます。

ここは数分ですが質疑応答に入らせていただきます。ご質問、コメントなどございましたらどうぞ。大西さん。

○大西議員 ありがとうございます。

私の大学も地方にあって、中小企業とお付き合いが深いのですけれども、中小企業が同業組合と言いますか幾つかまとまって研究開発に取り組むようなケースと、それから単独で余りつるまないでやるというケースもあると思うのですね。大学なんかから見ると少しまとまっていたほうが見えやすいというそういう点はあると思うんですけれどもね。そのあたりは中小企業側としてはどうやって、光る中小企業でいろいろなところと共同研究したり、あるいは政府からお金を受けるというのを目立つようにするのか、その辺の工夫というのは何かあるのでしょうか。

○荒井委員長 今御指摘の点についてですが、第2次大戦後はできるだけ日本の中小企業はみんな集まって同業組合をつくって一緒に部品開発するということを手掛けてきたのですが、その後日本経済が伸びてくると、中小企業の経営者は非常に個性的な人が多いので、人と一緒にはやりたくないとか自力で頑張る、このことも非常に大事なわけですが、しかし、それだけではパワーになりませんから、今先生から御指摘があったように、中小企業がもう一遍力を合わせてやっていくことが必要ではないかと思っています。地方創生クラスターというのはそんな気持ちを込めて、地元が、中小企業同士は競争相手でも、大学の先生が入って一緒に協力しなさいと言うと、大学の先生の言うことは大体みんな聞きますので、こういう連携をふやして、その力を合わせる方がいいことだというマインドをふやしていきたいというふうに思っております。

御指摘のとおり一匹狼みたいな取組みでパワーを発揮していないのもございますが、その辺

は個性を生かすのとどういふふうにバランスを取ればよいかは是非大学の御指導を得てやっていきたいなと思っております。

○橋本議員 最後にある「中小企業と地域発のものづくり立国で地方からイノベーション」は、これは政府のここの成長戦略の中でも大変重要な位置付けにあって、その核として、地域の大学ともう一つ地域の金融機関と一緒にあってというのが大きな方向で書かれているわけです。今回その部分は余りおっしゃらなかったのですけれども、第5期にこのことを入れるとすると、大学とそれから地域がいろいろ持っている総合力を使うということが重要なので、金融機関という言葉も重要ではないかなという気がしているのですけれども、いかがですか。

○荒井委員長 橋本先生の御指摘のとおりでございます、私どもの資料が不十分でございます。気持ちは全く一緒でございます、そういう産学官金が力を合わせてやっていくということ全く異存ございません。是非お願いいたします。

○小谷議員 日本が元気になるために地方が元気になってそこからいろいろなものが生み出されていくこと、大変重要だと思っております。特にご提言いただきました人材育成のところ、地域にある大学と地域の産業の連携、非常に重要だと思います。人材育成においても大学と産業界がコミュニケーションをとりながらいい人材を育成していくことができればと思っております。

また、ものづくり分野において働く女性の活躍促進ということもございしますが、本当に重要ですので、是非推進よろしくお願いいたします。

○荒井委員長 すみません、女性の活躍推進の部分ははっきり言いませんでしたが、私ども本当に女性の活躍促進が科学技術にとって極めて重要だと考えております。

○小谷議員 資料には書いてございますので、大変ありがたく拝見いたしました。

○荒井委員長 そこは改めて申し上げます。私どもは、女性の活躍、それで地方が元気になっていくと思っております。

地方の大学と中小企業の連携の取組みについて全国を見ても、非常にうまくいっているケースとまだまだのケース、連携してみようと考え始めたところと3つぐらいに分かれているのではないかと思います。大学はやはり中小企業から見ると雲の上というか敷居が高いんですね。大学の先生はみんな優秀な方で、学生時代を思い浮かべると大学の先生には頭上がらないと考えている経営者が非常に多いのです。。それから、大学によってはまだまだ中小企業を低く見

ているケースもあります。。例えば、中小企業のやっていることはレベルが低いという先入観をお持ちの先生方もおられます。そういうグループと、中小企業にキラリと光る技術があるとか、グローバルニッチトップというのは世界一なわけですから、そういうところと組むと研究にとってもいいことだと思い始めているグループがあります。長岡技術科学大学の例を申し上げましたが、具体的に大学が間に入って、地元のコアになって連携をしていくようなことが出てきています。私ども商工会議所も全国にお願いをしているわけですが、大学サイド、特に今回国立大学法人の中期計画でも地域重点大学、そこでは力入れていただけるということでございますので、商工会議所サイドあるいは中小企業サイドも体制をつくっていきたく思っておりますので、どうぞ御指導よろしく申し上げます。

○久間議員 大学にできることは基本的には技術開発です。開発した技術を産業、ビジネスにつなげるには、産業界のことでと大学と、両方わかるリーダーが各地域にいないとうまくいかないと思います。中小企業1社ごとにそういったリーダーを置くのは効率が悪いですから、地域ごとにリーダーをつくっていくべきだと思います。

○内山田議員 御説明ありがとうございました。提言3につきまして一点お伺いします。私も地元主導の地方創生クラスターは非常に重要だと思いますし、この拠点が将来的に日本を代表する拠点になってほしいと思うのですが、一方で過去に我が国はかなり長い間クラスター政策を施策としてやってきており、その中でうまくいかなかったケースと幾つかうまくいったケースがあると聞いています。そういう過去を踏まえて、今までのクラスター政策とは違う、クラスター創生のために、新たにやってほしいことや実施すべきだというような点はございますか。

○荒井委員長 私どもが「クラスター（仮称）」と書きましたのは、実はクラスターについては非常にいい思い出を持っている人と、悪い思い出を持っている人がいまして、何だあんなものかということにもなりかねないので、きょう現在「（仮称）」になっていますが、やはり新しいバージョン、2010年代にふさわしいようなそういう地元での産学官金、さっきお話ございましたように少しこういうものと、そういうことをやりたいということです。

それから、特に最近では地元自治体の気持ちが随分変わったんですね。昔はこういう取組みはどちらかというと国が、文科省や経産省がやってそれを地方でやってもらうというような形だったのですが、最近では地元自治体自身が国頼みではなくて自分たちでやらなければいけないというような気持ちが出てきています。それから、大学がかなり、こういうことを言うと失礼かもしれませんが、昔いったときに比べて彼らの役割、文科省のいろいろな国立大学法人の見

直しというか再定義によって意識が変わってきています。それから、金融機関自身も、融資先がだんだん減ってきていますので、有利なところに貸していきたいと変わってきています。それから、中小企業のほうは、大企業はかなり海外に行ってしまったたということでこっちも真剣になってきたということございますから、これを一遍組み合わせし直すと、このクラスターの名前を変えるとうまくいくのではないかとということでございます。そんな気持ちでございます。

○原山議員 手短に。

○平野議員 皆さんがおっしゃったことと思うのですが、大学と地域の中小企業との間の調整にリーダーシップが欠けていると思います。そのときに地方自治体の役割や、先ほど橋本議員がおっしゃった金融機関・地方銀行の役割は非常に大きいと思います。その辺が機能すれば、大学も決して敷居は高くしてないので、うまく連携ができるのではないのでしょうか。大阪にはいっぱい中小企業があって、何とか大阪大学も中小企業と連携しようと思うのだけれども、中小企業は数多くて、お互いのマッチングがなかなかうまくいかない現状があります。その辺を調整する機能が必要だと思います。

○荒井委員長 今の点を、中小企業サイドから見たときに、大学へこんなお願いに行っているんだらうかと思っている人もまだいるんです。大学へ理論武装してほしい、データの解析をしてほしいという希望は持っているのですが、大学の先生はもっと高度なことをやっているのだからこんな中小企業のためにやってくれるんだらうかなと中小企業サイドは思っていますので、これはみんなで気持ち変えて、大学の先生はやさしいいい人が多いということがわかると相談しやすくなります。そうしてくると大学の先生のほうもいろいろな現場のデータが集まったら理論もいろいろな進歩にも寄与できるのではないかと思います。御指摘のとおり、少し中小企業サイドも控えめすぎるかもしれませんが、大学サイドのほうもやさしい顔をして迎え入れてくれるとありがたいと思います。

○平野議員 大学も努力しないといけないですね。

○荒井委員長 こっちの努力もそれ以上に大事だと思っております。

○原山議員 ありがとうございます。

本当に一言だけ。

○大西議員 クラスターについて仮称と書いていただいて、私も従来のクラスター地域でまともなきやいけないというのが、もうグローバルあるいは全国で競い合ったり提携している中

で地域性というのがどれぐらい必要なのかなという気もしていたのですね。そういうことを経産省の審議会などでも発言していたのですが。ちょっとそういう意味ではクラスターというのが余り地域でまとまらなければいけないというイメージにとらえられない、もっとネットワークを広くすると。必要な情報なり人材なり技術は地域を超えて連携をすると、そういうイメージにしていくと発展性があるのかなと思います。

○荒井委員長 参考にしていきたいと思います。

○原山議員 非常にホットなトピックスで、中小企業は基本計画に様々な場面に入っています。まいど1号という大阪の事例があります。あれはまさに複数の中小企業のパワーからできたものだと思いますし、多摩地域の話になりますと、西武信金というのはまさにさっき荒井さんおっしゃったように、みずからの融資先を求めるという形でもってこれに乗ってきた、それをうまく使ったのがTAMAだと思っています。もう一つ、さっき言及なさってなかったのが、大企業の持っているIPの棚卸、その使い先として中小企業というのは非常に重要という認識があって、その辺のところにも言及がありますと。

先ほどの最後のクラスターなのですが、クラスター政策というものは政策として存在したのですけれども、多分今荒井さんがおっしゃっているのはクラスタリングとかネットワークングとか、チームをつくることによってエンパワーメントしていく、その視点だと思うので。呼び方が非常にクラスターという言葉を使うと引っ張られてしまうので別の切り口だと。でも、趣旨というのは多分皆さんシェアしていますし、その方向で基本計画のほうにも反映できるものは反映していただきたいと思いますので。どうもありがとうございました。今後ともよろしく願いいたします。

○荒井委員長 ありがとうございました。よろしく願いいたします。

## 議題2. 「第5期科学技術基本計画の最終とりまとめに向けての意見」について

○原山議員 すみません、議論が熱を持ってきたところで次のところに移らせていただきます。議題2でございます。第5期基本計画の最終とりまとめに向けての意見ということで、今度は企業サイドの視点です、COCONから御提言いただきます。きょうは須藤さんからプレゼンしていただきます。

<COCN 須藤専務理事・実行委員長より説明>

○原山議員 ありがとうございます。

ここからは質疑応答でございます。コメント、御質問ございましたら。いかがでしょうか。

○大西議員 どうもありがとうございました。

一番最初に超スマート社会について少し整理をしていただいて、5つですかね、具体的な、内容がイメージできるような概念というのを整理するべきではないかと。私も全く同感で、この間私はスマートシティというテーマで国際シンポジウムとか何回かつき合っているのですが、非常にスマートシティという言葉で出てくる発表内容がかなり拡散していると言いますかそれぞれとらえ方がある。

私はこの御提案5つがともすればスマートという供給者側がこんな便利な社会をつくってあなたは何もしなくてもどこでも行けますとかそういう供給者を中心とした発想なり提案になりがちなのを、むしろ需要側からとらえて書かれているのが幾つかあるのではないかと。そうするとユーザーがどう超スマート社会で便利さとか利便性とか快適性とかそういうのを高められるかという視点が含まれているのではないかという気がして、それは非常に大事な視点かなと思うのですが、そういうとらえ方でもよろしいのですかね。

○須藤実行委員長 はい。なるべく国民側から見てスマート社会というのはどういうのかというのを中で議論しまして書いたつもりです。

○橋本議員 盛りだくさんの提言、どうもありがとうございます。

今回私は第5期は産業界と国が一緒になってつくり上げるべきだと強く思って主張もしてきました。そういう意味ではいろいろな皆さんの提言をいただいて、またそれをできるだけ取り入れるようにしてきたということだと思いますので、是非これについても議論をしっかりとしたいと思います。大分今までに比べて産業界の言っておられることを取り込んできたと思いますし、今後もそのようにいくと思います。

そうすると、やはり産業界に対しても、産業界はただ要求するだけではなくてプレミアとしてしっかりと意思表示をしていただきたいというのがあります。言い方を間違えるといけなくて、コミットメントという言葉はよくないのでコミットメントとは言いません。これは政府の書かれるものですし、国のものに産業界が例えばお金幾ら出しますなんてこんなこと書くのもおかしい話なので、それはいいと思うのです。ただ、やはり国と一緒にあって産業界はこの大きな

方向のもとでイノベーションを起こす主体として責任を持ってその部分を動かすというような意思表示をいただきたいと思うのですね。今の政府との官民対話もまさにそういう議論をする場で、官民対話ではもう少し一歩進んだものを求められるのだと思います。第5期はそこまではないと思うのですけれども、でも、そういう大きな意志の表示の部分というのは大変重要ではないかなと思います。

実は前回、内山田副会長に経団連の緊急提言をご説明いただいたときには、最後に3行か4行ですけれども、そういうことをしっかりと書いてくださった。あれは大変大きいと思うのです。

○内山田議員 5行ぐらいあった。

○橋本議員 5行ぐらいですかね。あれは大変大きいと思うのですね。やはり政府の抱える大きな方向の中にそういう産業界の意気込みをしっかりと位置付けるということは重要だと思うのです。その観点で言うと、本日のご説明では余りそういう部分がなくて、要求だけのように見えるのですけれども、いかがなものでしょうか。

○須藤実行委員長 そのとおりだと思います。我々も提言しているからにはちゃんとこういうことをやるんだよというのをいろいろなところで発言しています。この提言書にはあまり書いてませんが。

○橋本議員 少しそういうのを是非書き込んでいただいて。それで一体化してみんなで作っているんだというイメージが出せると思いますので。

○須藤実行委員長 はい、橋本先生がおっしゃるとおりだと思いますので、これからその辺も十分頭に置いて進めたいと思います。

○久間議員 須藤さんに提出頂いた資料の4章と5章は、今の基本計画の2章、3章にあたりますが、ここはCSTIと産業界が一体となつてつくってきたと思います。どうもありがとうございます。ところが今の基本計画には、産業界が提案した項目が余り書かれていないではないかという御不満があると思うのです。例えば基本計画の2ページに、人とロボットの共生とか、あらゆる人々にとってストレスのない移動といった記載があります。このように提案の一部は具体的に書いてありますが、まだ書けていない部分もあるので、これからパブコメ等の意見も踏まえて追加したいと思います。

それから要素技術の話ですが、サイバー空間に係る基盤技術は大体書き込んであります。問題はフィジカルなところの基盤技術例で、これは書くときりが無いのです。

例えば原子力は、エネルギー分野しか通用しない技術なので、2章に書くのはそぐわない。2章のフィジカルの基盤技術には、本当に共通基盤になる技術のみを書くことにしました。

○須藤実行委員長 私どもも全部この章に入れてほしいと言っているわけではありません。どこかに最適な場所があるはずなので、そこにに入れていただきたいということです。

○久間議員 はい。それから人材に関しては、確かに4章に書いてあるように、ソフトウェアのより具体的な中身を書いたほうが良いと思いました。少し検討します。

○須藤実行委員長 ありがとうございます。

○久間議員 それから橋本先生がおっしゃったコミットメントは、COCNは難しいと思います。経団連にはコミットしてもらいたいのですが、COCNと経団連はミッションが違います。COCNのミッションは鋭い提案力であってコミットメントではない。

しかし4章の未来の産業構造のシステムは、産業界が引っ張らないとできない研究ですから、ここは経団連と一緒に、COCNには是非これからもリーダーを担っていただきたいと思えます。お願いします。

○原山議員 平野さん、手短にお願いします。

○平野議員 どうもありがとうございます。

御指摘されているように、健康長寿やライフサイエンスに関する内容が十分書き込めていないというのは事実ですし、今後の政策運営の一体化を考えたときに、AMEDとCSTIがどういう関係になるかというのは引き続き懸案だと思います。これは非常に私も重要なことだと思います。

○須藤実行委員長 よろしくお願いします。

○原山議員 時間もあれなのですけれども、やはりさっき橋本さんがおっしゃったことと経団連のこの間のペーパーで示されたこと、よくPPPと言われるのですが、パブリックプライベートパートナーシップが基盤でもって、これが基本計画の内容が実施するスタンスです。もちろん御提言をありがたく承るとともに、やはり一緒に行動していく。次の行動につなげないと、言うだけのペーパーになってしまうので、その辺もよろしくお願ひしたいと思えます。

○須藤実行委員長 わかりました。

○原山議員 本日はありがとうございました。

○須藤実行委員長 どうもありがとうございました。

### 議題3. 「10月に実施された国際会議について」について

○原山議員 続きまして議題3です。10月に実施された国際会議についてということで、笹井さんからお願いします。

<笹井参事官より説明>

○原山議員 ありがとうございます。

ちょっと補足情報なのですが、最近、アメリカの“A Strategy for American Innovation”が出ましたので、これを皆さんとシェアしたいと思います。

中身を見ますと、大体うちの基本計画の中で議論しているコンテンツとほぼ同じです。セッティングの仕方は少し違いますけれども、コンテンツに関しては余り違和感がないのが印象です。

それから、G7科学大臣会合については、コミュニケという形で結果がまとめられていますので、これもお目通しいただければと思います。

韓国のテジョンで行われたOECDの科学技術政策委員会閣僚級会合に関しましても、「テジョン宣言」が取りまとめられています。数ページなので簡単に御覧いただければと思いますが、科学技術・イノベーション政策の動向、これからのトレンドと見るときに参考になると思います。

何か御質問、コメントございましたら。

それから、もう1点だけなのですが、CSTIにも間接的に関係すると思われるのが、ことしの11月30日から広島で開催されますITU（国際電気通信連合）の会議です。国連のITUというのはテレコムなのですが、創設150周年記念の閣僚級会議が広島で開催されます。そこでの議論が第2章に関するビッグデータ、AIの話があってというところで、イノベーション関係のところもございますので、この辺も閣僚級会議としてウォッチしていくことかなと思っております。

よろしいでしょうか。 ありがとうございます。

では、これもちまして議題3を終了させていただきます。

本日の会議、これもちまして3つの議題を終了いたしました。ありがとうございます。

以上